

## 日本版シリコンバレーに関する勉強会 第1回 質疑応答

Q（（株）ちばぎん総合研究所 水野会長）： 先日、災害に関する勉強会を3回開催し、その中で今後、千葉の日本版シリコンバレーに関する3つの将来的な方向性が挙げられました。第1は気象ビジネス、ベンチャー企業から始まり今は上場しているウェザーニューズ社さんが幕張にありますので、この先進的な技術を核に千葉発の新産業として世界に貢献していくことができないか。第2に、今話題となっている5Gを活用する農業やコロナ対策に関する実験場ができないか。第3は環境問題に繋がるのですが、千葉は過疎地が多い中、分散型エネルギーを活用し新ビジネスに繋げていけないかということです。

これらについて下野さんから教えていただけたところはないか、ご意見をいただければと思います。

A（下野氏）： 今の3つの言葉を聞いて思うことは、イノベーションや新規事業を起こす時、新しい技術などのシーズサイドと、例えば環境問題を解決しなければならないといったニーズサイドと、両方から歩み寄っていきます。そうすると、シーズから始まった場合はなかなか成功し難いと思います。

今の3つで言えば5Gは明らかにシーズです。ですから5Gの技術でビジネスの痛みや、社会の課題を解決できるかが明確に繋がらない限り、5Gの勉強をいくらしてもそこからイノベーションは起こらないように思います。その点3番目の環境の問題は物凄く切実です。ですからこの環境の問題では分散型エネルギーにより、我々の二酸化炭素排出量がどの程度減少するかといったことを明らかに関連付けられるのであれば、非常にドライブする力があると思います。もちろん経済性の問題とか、他の風力や地熱といった代替エネルギーとの競争をどうするかといった課題を踏まえた上です。1番の気象ビジネスはその丁度中間のような気がします。気象ビジネスはありとあらゆるビジネスにとって非常に有効な情報を与えてくれますが、それによってビジネス上どのような課題が取り扱われるのかということをはっきりさせないと進み難いところがあるのではないかと思います。ちなみにIBMはThe Weather Channel（※）を買収してビジネスをやっているのですが、担当者によるといわゆるマネタイズがなかなか難しい分野であると聞いています。

私の一押しは環境です。気象情報は加工次第では色々なものにつながってくる。5Gもそのものは非常に面白いので、5Gで何か画期的に変わるものを見つけ出したらそこから発展すると思うので、技術だけの話で終わらないように注意されたいのではないかと思います。

Q（（株）ちばぎん総合研究所 水野会長）： 環境を軸にして気象ビジネス、そしてそれに5Gが関連付けられれば面白いかもしれない、ということでしょうか？

A（下野氏）： そうですね、いずれにせよ千葉県はここ数年間、ひどい災害に苛まれたわけですから、是非ともレジリエントな県を作れるよう、頑張ってください。

（※）米国の気象専門有料TVチャンネル、2016年にIBMが買収。